
組合ニュース 山梨大学教職員組合

Tel (内線): 8097 直通 (Fax): 254-2667

E-Mail: kumiai@nashidai-union.org

TOPICS:

次期学長候補者の選考に関する学内意見の聴取について

1. 経緯
2. 執行委員の論点(参考)
3. 意見送付について

次期学長選考を控えていたなか、昨年度末の学長選考会議において、学長の再任をもう1回可能とする規程変更が可決され、5月末の同会議において、現学長の再任を可とする決定がなされました。この間の教職員の意向を覆す学長選考、教職員の意向を問うことなく学長選考会議内で選考ルール変更ができるシステム、また現実に学長選考会議内のみで再々任を決定してしまったことは、大学の民主的な運営を損なうものであり、ひいては教職員の労働意欲や大学をより良くしていこうとするモチベーションを著しく落とすことにつながります。

幸い、6月12日(金)を締め切りとして、職員の意見聴取が行われることになりました。連名での意見提出を認めないとのことですので、個人での意見書提出をしなければなりません。ここには、これまでの経緯と内容、執行委員のなかから出てきた意見を紹介しますので、考えるさいの参考にしていただければ幸いです。また、提出した意見などを共有したい、してもいいと思われる方は、ぜひ、組合までお寄せください。

添付資料:意見書様式、意見聴取について、審議状況について、医学部竹田教授による学長選考に関する意見書(5月26日)、学長選考基準、学長による記事

1. 次期学長候補者選考に関する規程変更の内容と経緯

(国立大学法人山梨大学学長選考会議「国立大学法人山梨大学次期学長候補者の審議状況について」より抜粋。下線強調は書記長)

【変更の内容】

従来の学長の任期：4年+1回限り(2年)→4年+1回(2年)+1回(2年)

(「国立大学法人山梨大学学長の選考及び解任等に関する規程」)

【経緯】

1. 2020年1月24日、第67回学長選考会議

規程改訂についての「発議」と「全会一致」

理由：大胆な改革の実行や安定的なリーダーシップという観点から、多くの国立大学で適切な業績評価とセットで学長の任期を見直す傾向や、様々な改革のさなかにある本学の状況等にかんがみ、さらに再任できるようにしてはどうか

2. 2020年3月17日 第68回学長選考会議

大学運営における業績等を踏まえ、学長選考会議が特に必要と認める場合は、1回（2年）に限り更に再任できるようにすることについて、全会一致で決定。

3. 4月27日 島田学長に再任する意思があるか確認

再任の意思が示され、所信表明書が学長選考会議にあて提出される。

「次期山梨大学長候補者の選考に関する取扱要領」を改正、**更なる再任の場合にも再任の場合の手続きを準用**することとした。これにより、現学長に対して再任の意思を確認し、再任の意思がある場合は、書面及び面談に基づく在任期間中の業績評価を行い、再任の適否について判断することとした。

4. 2020年5月29日 第69回学長選考会議

島田学長再任可否について、**書類及び面談審査の結果、再任可。**

☛**手続き：選考会議が「特に必要」と判断→学長の再任意思確認→業績評価と適否判断**

5. 最終的な決定にあたって、職員の意見聴取を行うこととなった。

【再任可とした理由】

これまでの島田眞路氏の業務実績や運営手腕、特に現在手掛けている一般社団法人大学アライアンスやまなし設立による大学間連携の推進、国立大学イノベーション創出環境強化事業採択を通じた民間資金獲得増加に向けた取組、市場調査チームの結成などによる経費節減の実現、今般の新型コロナウイルス感染症への迅速な対応などにみられる改革への熱意及びその経営手腕から、選考基準に掲げる学長に求める資質・能力及び対応すべき課題を解決する力を十分に有していると考えられる。

とりわけこれまで大学運営に関わってきた同氏の豊富な経験とスピード感を持った行動力、強い統率力は、今後益々厳しくなるであろう環境の下で、本学の運営・経営を託すことできる者であると確信できる。

また、同氏が手掛けている上記事業は全国立大学をリードする極めて重要な課題であるが、まだ緒についたばかりのものも多いことから、体制を変化させることなく継続的にこれらの事業を推進していくことが必要であり、それが本学により大きな成果をもたらすものとする。

2. 執行委員間で意見として出てきた論点（参考）

【意見聴取の目的と方法】

1) 意見聴取の目的は何か。

選考会議の意見表明は、すでに決定済みのように見受けられる。そのうえで教職員の意見を聴取し、その内容も内外に公開しないということは、学内構成員の意見をどのように位置づけているのか。単に**形式的にそのような手続きを取っているだけ**のように見える。

2) 意見聴取の方法について。

もっと**時間を取って率直な意見を出しやすい環境を整える**べき。

「**連名は不可**」とのことだが、個別には挙げにくい声も、広く聴取するためには、この方法は適さない。また、意見を述べることによって不利益が生じることを懸念する者も発言できない。出てきた**意見を非公表**とすることも問題がある。通常、国のパブリックコメントでは意見を公開している。それによって、回答や検討がどのようになされたかを知る権利が保障される。**意見および回答を公表**してほしい。

【「審議状況について」における**現学長の評価基準**について】

1) 現学長の手腕を高く評価しているが、国立大学法人評価機構の年度評価 (https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/1422680.htm) ではこのところほぼ中位（「順調」）であり、時々「おおむね順調」となっている。

2) 運営費交付金の重点支援の評価結果

(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1417263.htm) では、4年連続 100%を下回っており、そのような大学は、単科大学を除けば、本学を含む数大学しかなく、**最低に近い評価**ではないか。特段の規則改正を行い**2年延長するほどの高い評価とはとても言えない**。

3) 大学**入学試験偏差値等の一般評価**においても、本学が目覚ましい改善を遂げているとは言い難く、同様に規則改正による2年延長が必要とはいえない。

「一般社団法人大学アライアンスやまなし設立による大学間連携の推進、国立大学イノベーション創出環境強化事業採択を通じた民間資金獲得増加に向けた取組、市場調査チームの結成などによる経費節減の実現、今般の新型コロナウイルス感染症への迅速な対応などにみられる改革への熱意及びその経営手腕」は、**未だ成果が不明のものもあり、「熱意」だけでは再々任に十分な評価を得られるとは考えにくい**。

「同氏が手掛けている上記事業は全国立大学をリードする極めて重要な課題であるが、まだ緒についたばかりのものも多い」とあるが、この理由では、任期の最後に新事業を立ち上げれば、まさに「余人をもって代えがたし」という状況が作れてしまうことになる。むしろ、**現在進行形の事業のある時こそ**、それについての**教職員の信任を得られるかどうかを問う必要**があり、再々任ではなく、教職員の意向投票を行う従来の手続きが重要となるため、従来の選考規程に戻すべき。

【本学教職員の意向を十分に汲む仕組みの重要性】

- 1) 現学長の**強い物言いや指示**のもとで、学内で**率直な意見を出し合うことがなくなり**非常に息苦しい雰囲気が漂っている。**大学の活性化のためには、創意あふれる協働を行う気風の醸成が急務**である。そのためにも、学内構成員の本音の意見を把握するための措置（意向投票の実施やヒヤリングなど）が必要。特に学外の委員には、直接的な学内の状況調査をお願いしたい。
- 2) 国立大学法人そのものが**独裁的な運営を可能とするシステム**だからこそ、学長選考会議は**自制的に、さまざまなチェック機構を整える必要がある**。同様なことは現学長の著作にも記述があり。今般の学長選考会議の規程改正や選考方法は、そうした方向とは逆向きのものなので、元に戻すべき。
- 3) **学長選考会議のメンバー**は、学部長以外は学長任命によるものなので、学長が任期延長を希望した場合に、学長選考会議が「特に必要と判断」することの**客観性・公平性が保てない**。学長選考会議が「特に必要と判断」してから、「学長の意思」を問い、そのうえで「評価に基づき適否判断」をするという手続き自体が、こうしたメンバーの構成では、形骸化してしまう。
- 4) 意向投票や十分な期間と機会を保障する意見聴取などによって、**教職員の合意形成の手続きを取ることは、「リーダーシップ」を発揮するために不可欠**である。なぜならそのような過程を経てこそ、教職員のやる気を引き出し、よりよい大学運営へと結びつけていくことができるからである。

3. 意見送付について

意見聴取は、今週 6 月 12 日（金）15 時までですので、ご意見のある方は、提出していただければ幸いです。意見書様式と提出方法について、添付いたします。

また、もし組合員で意見共有をしたい、してもいいと思われる方は、匿名でも結構ですので、組合までお寄せください（kumiai@nashidai-union.org）。一人一人が分断されると、それだけ力が小さくなります。それぞれの立場から出される異なる意見を共有して、大きな力にしていきましょう。